

課題別評価表(4)

取組課題 授業研究推進	担当名・指導部名／担当者名 研修担当／村田 智	評価方法	教職員アンケートを中心とする 教職員による自己評価 (項目により対象の幅は異なる)
取組の柱 1 全校体制での授業研究推進 【研究主題】 「仲間と共に学び、コミュニケーション力を高め合う子どもの育成 ～教材の特性を生かし、楽しく学び合いながら活用力を育てる国語科授業づくり」 2 全国学力・学習状況調査の結果等を踏まえた指導の充実	実態把握 子どもたちを取り巻く社会では、日常生活におけるコミュニケーションの欠如と人間関係の希薄化が加速し、様々な社会問題が起きている。そのような背景から、子どもたちがコミュニケーション力を身につけることは重要であると捉え、コミュニケーション力の育成に重点を置いた教育活動に取り組んでいる。また、基礎・基本の確実な定着や、コミュニケーションに必要な読解力や思考力・判断力・表現力なども高めることが重要である。 昨年度は、全国学力・学習状況調査の結果から見えてきた課題をもとに、算数科のラーニングスキル表を作成して、子どもたちの記述力をつけるための指導を行った。	達成度の判断基準	教職員の評価の平均 A : 3.5以上 4.0以下 B : 3.0以上 3.5未満 C : 2.5以上 3.0未満 D : 2.5未満

評価項目 (具体的な取組)	評価規準	達成度			
		中間	中間	年度末	年度末
1(1) コミュニケーションを大切にしたい授業づくりを行う。教材の特性を踏まえた授業を考え、年間を通して、継続的に取り組む。	教材の特性を「教材研究シート」にまとめ、それを生かした授業を組み立てることができた。(研究授業前に、教員による事前研究会で検証する。)	A	A	A	
1(2) 「授業が変われば子どもも変わる」という観点から、「授業をもっと楽しく魅力的にするために、授業研究を進め、教師の「授業力の向上」を目指す。	全教員が年間1回以上、公開研究授業及び事後研究会を実施し、年間5回以上、他の教員の授業を参観し、事後研究会に参加した。	A	A	A	
2 全国学力・学習状況調査の結果等をもとに、学習面や生活面の長所や課題について全教員で共通理解を図り、学年の実態等に応じた取組を進める。	全国学力・学習状況調査の結果から見えてきた課題の解決に向けて、算数のラーニングスキル表や南が丘スタンダードを用いて指導することができた。	A	A	A	

達成度については、A:十分に達成できた B:おおむね達成できた C:あまり達成できなかった D:達成できなかった

中間評価		年度末評価		昨年度からの (来年度への)申し送り
9月末の達成状況	総合評価	12月末の達成状況	総合評価	
1(1) 教材の特性を「教材研究シート」にまとめることで、コミュニケーション力を高めるための「具体的な手立て」がより明確になり、指導に生かすことができた。また、単発的な指導で終わるのではなく、年間を通して繰り返し指導する「見通し」を持った授業計画を立てることにつながっている。 1(2) 年度初めに立てた計画をもとに授業研究を進めている。 2 全国学力・学習状況調査の結果から見えてきた課題を全体で共有し、学年間で連携して取組を進めることができた。	A	1		1(1)教材の特性に迫る授業案を考え実践していく。 1(2)コミュニケーション力を育てていく上で重要となる、思考力・判断力・表現力を育てていく指導を研究していく。 1(2)コミュニケーション力を育てて行く上で基礎となる、子どもたちの語彙力を増やす工夫をしていく。
		2		
		3		

総合評価については、A:達成度の過半数がA C:達成度の過半数がCまたはD B:AとCの間